

自立支援協議会実務者会について

1. 今年度の取組内容

- ①多角的な視点（事業所，専門職からの視点，地域，当事者からの視点）での地域課題の抽出。
- ②緊急性と合理性を観点に地域課題を数値化して分類。
- ③課題解決のために必要な予算について理解を深める。
- ④今年度の課題を決定し，具体的な取り組みを検討した上，次年度の専門部会へつなぐ。

2. 実務者会開催経過と協議内容

	日時	場所	協議内容
第1回	平成30年 10月16日	芦屋市保健福祉センター	<ul style="list-style-type: none"> ・実務者会の目的の共有と昨年度の報告。 ・専門的な視点だけでなく，地域や当事者の視点を共感し理解した上で地域課題を抽出し，緊急性，合理性に配慮し課題を分類。
第2回	平成30年 11月27日	芦屋市保健福祉センター	<ul style="list-style-type: none"> ・数値化された抽出課題を取りまとめ表に示し結果を説明，報告。 （取りまとめ表 資料3-2） ・芦屋市における予算編成スケジュールの説明。 ・緊急性，合理性の高いものを絞り込み1つの課題に限定せずリンクする複合課題として検討。 ・「欲しい時に欲しい情報が得られる場」「触れる情報を得られる場」を作ること を目的として次年度専門部会へつなぐこととなる。

3. 今後の予定

今年度統一課題としてまとめた「欲しいときに欲しい情報が得られる場」「触れる情報を得られる場」作りが早期に実行できるよう，次年度の専門部会は年度変わり早々の開催が望まれる。

また，今回は地域課題として取り上げることができなかった課題についても継続して検討する必要がある。

平成30年度 芦屋市自立支援協議会 第1回実務者会議(H30.10.16実施) まとめ

資料3-2

課題	合理性	緊急度	取り組み主体			
			行政	サービス事業所 (学校・医療)	地域・家族会 (個人・家族)	
			行政としての予算	制度内での取り組み	地域での普及啓発	
			市の協賛・バックアップ 制度の運用	本人ニーズの充実	インフォーマルな支援 共助	
1 サービス利用を待たせない	5.5	5.5	■	■	■	
2 情報を得る機会がない。事業所説明会	5.5	5.5	■	■	■	既存のものをどう工夫していくか
3 早期サービスの提供 計画相談員の不足	4.9	5.5	■	■	■	
4 進学相談→オープンスクールの告知	4.9	5	■	■	■	
5 計画相談員の不足→育成(学生)	4.4	5	■	■	■	
6 早くサービスに繋がるような情報 内容豊かに	4	4.5	■	■	■	
7 障害の普及啓発	4	3.5	■	■	■	恒常的に取り組むべき課題
8 サポートファイルが使えない	4.5	1.5	■	■	■	既存のものをどう工夫していくか
9 ガイドマップ充実したものが欲しい	5	1.5	■	■	■	既存の更新にどう取り組むか
10 障がい者と健常者が交流できる場所があれば→地域イベント	2.7	4.5	■	■	■	既存のものをどう工夫していくか
11 児童・成人・高齢事業所の交流	3.2	3.5	■	■	■	一部65歳問題PTにて取り組み
12 グループホームが少ない増やして欲しい	3.2	3.5	■	■	■	
13 職員のスキル・経験の不足	3.1	2.5	■	■	■	
14 市に専門職設置	3	1.5	■	■	■	
15 仕事終わりに過ごせる場所作り	2.5	1.5	■	■	■	
16 大人になっても訓練やってもらいたい	1.8	2.5	■	■	■	
17 受給者証なくても見て欲しい	2	2.5	■	■	■	基幹相談・基本相談で実施している
18 療育後の連絡先で必要な分加配がもらえる安心感がほしい	1.8	1.5	■	■	■	
19 送迎バスの必要	1.2	3.5	■	■	■	過去に取り組んでいるが解決できていない課題
20 親亡き後の支援 住宅問題	1.8	4.5	■	■	■	一部65歳問題PTにて取り組み
21 人手不足	2	5.5	■	■	■	
22 施設が芦屋にない	1.5	5.5	■	■	■	
23 放課後後の居場所の確保	1	5.5	■	■	■	
24 ショートステイの空白時間問題	2.5	2.5	■	■	■	
25 一人暮らしの力をつける支援	2.5	2.5	■	■	■	既存のサービス・療育・教育・訓練の取り組み